

謹賀新年 今年もよろしくお願ひいたします。

令和5年 元旦

酒井 董美

ZOOM発信・伝承文学あれこれ (34)・正月の神さん

2023年1月1日 (日) 特別号 (次回から月曜日にします)

酒井 ただよし 董美

正月の神さん 歳事歌 松江市島根町多古 歌い手 小川シナさん・明治32年 (1899) 生

正月の神さん かん どこまでござった

大橋の下まで

破魔弓 はまゆみ を腰に挿いて

羽子板を杖にして

えーいえとござった



収録日 昭和59年 (1989) 7月27日

#### 解説

正月が近づくと子どもたちは、正月を擬人化したようなこのような歌をうたって、来るのを歓迎し

イラスト・福本隆男

た。全国各地にこの類の歌は存在している。少し紹介しよう。

出雲市大社町では三瓶山から次のようにしてやって来る。

正月さん 正月さん

どこからござっしやった

三瓶の山から

羽子板腰に差いて

土産は何だ

勝栗に 神葉草 (手銭歳子さん・大正12年生)

浜田市三隅町東平原では、

正月じいさん来ました

竹馬に乗って タコを背中に担いで

にこにこ笑って来ました（九十九クウさん・明治二年生）

隠岐郡西ノ島町三度では、

正月つあん 正月つあん

どこからおいでた

みたべ  
三度の浜からおいでた

重箱に餅入れ

徳利に酒入れ

トックリトックリござった（萬田半次郎さん・明治八年生）

鳥取市用瀬町鹿子では、

正月さんはどーこ どこ

万燈山の裾の方 白い箸にバボを挿いて

食いきり 食いきり 今日ござる

（小林もよさん・明治三年生）

米子市大谷町では、

正月つあん 正月つあん

どこまでござった

かんだ  
勝田の山までござった

山百合 杖について 羽子板 腰にさし

栗の木箸に団子挿して

かあぶり かあぶり ござった

（船越容子さん・昭和七年生）

すぐそこまで正月はやって来ている。自分たちの住むところへもすぐに来るのだ。そのような弾む心がこの歌からはうかがえる。しかも、その正月さんは、正月の象徴である土産を持って来てくれるのである。松江市島根町では破魔弓や羽子板を持って、また、鳥取市用瀬町では白い箸にバボ、すなわち餅を挿し、米子市大谷町では山百合の杖をつき、羽子板や栗の木箸に挿した団子を持って来てくれるのである。

それではこれらの土産を持ってきてくれる「正月さん」とは何者であろうか。それはいうまでもなく、季節ごとに姿を変えてやって来、わたしたちが正しい生活を行っているかを、点検し、心正しいものが困っていれば幸せを授け、怠け者がいればそれを戒めるために来る祖霊、すなわち先祖の神なのである。